

# 令和6年度「未来を創る学力向上支援事業」に係る 未来を創る授業力向上協議会（小学校算数）

令和6年6月3日（月）

大分県教育センター

【目的】各小学校及び義務教育学校前期課程の教員等を対象に、学習指導要領の趣旨を踏まえた小学校算数科の授業改善等に関する説明・講義等を通して、小学校教員の授業力向上に資する。

## 【1】開会行事 大分県教育委員会挨拶 <義務教育課長 小野 勇一>

- 経験年数の浅い教員の人材育成が喫緊の課題である。
- ミドルリーダーを中心に学校ごとにおいて授業改善の充実が大切である。今回の協議会で得たことを各学校にて還流をお願いしたい。
- 講師に国立教育政策研究所教育課程調査官笠井先生にご講義をお願いしている。昨年度もお呼びしてご講義をいただきたくさんの学びがあった。ぜひ、今日のお話のことを各学校に還流していただきたい。



## 【2】行政説明「大分県における算数科の課題と授業改善」義務教育課学力向上支援班指導主事 河野 寛治

- 令和5年度全国学力・学習状況調査質問紙より  
「算数（数学）の勉強は大切だと思いますか。」  
→大分県は94.2%である。（全国平均並み）  
「算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと思いますか。」  
→大分県は93.3%である。（全国平均並み）  
「算数（数学）の勉強は好きですか。」  
→56.7%である。算数は大切と感じているが、好きかといえば課題がある。  
H31年度から減少傾向である。
- 算数（数学）指導は今後どのようにすればよいか  
例えば、以下のような考え方もある。
  - ・40年前→この問題を、このように解きましょう。  
現在 →この問題を、どのように解きますか。
  - ・20年後→どのような問題を、どのように解きますか。
- ・算数・数学の問題発見・解決の過程のイメージ図より  
日常事象から問題を見出す力→今も変わらない。大切にしようをお願いしたい。
- 令和5年度全国学力・学習状況調査より
  - ・結果のポイント  
全国平均を上回っている。授業改善が進んできている。



- ・課題が見られた問題  
高さが等しい三角形の面積比較の問題  
→問題を解決する際に、情報を主体的に見出す力の育成が必要

○令和5年度大分県学力定着状況調査結果より

- ・結果のポイント  
全てにおいて全国平均を上回っている。
- ・つまづきが見られた問題  
はがきのおよその面積を選ぶ問題  
→面積や単位についての感覚を身に付けることが大切である。

○大分県小学校の算数科の課題について

- ・説明（記述）することが苦手
- ・学習内容と日常とのつながりの希薄化
- ・算数の愛好度が下降傾向

【協議1】

『児童の数学的に考える資質・能力の育成に向け、算数の問題発見・解決の過程を意識した授業展開はどうあればよいか。』

(各グループより)

- ・底辺や高さに着目する授業の構築
  - ・情報が多い→焦点化する
  - ・低学力層→支援の準備をしておく。
- ◎授業アイデア例を参考にしていきたい。

【協議2】

『算数好きになるにはどうすればよいか。』

(各グループより)

- ・既習事項とのつながりを大切に。活躍する場をつくる。日常生活から算数につなげる。等

○おわりに

- ・数学的活動について（算数科解説より）数学的活動のポイントを大切にしていきたい。
- ・算数では苦手な児童をつくらないことが最重要である。



【3】講義

「魅力ある算数科の授業づくりに向けて」〈講師〉国立教育政策研究所 教育課程調査官 笠井 健一 氏

※低学力層の児童が「なるほど」と思える授業づくりを

○授業を見せていただくときの視点

- ・育成すべき資質能力 ・単元全体の目標を明らかに ・学習指導要領から  
→苦手な子どもが分かるように
- ・指導法～子どもの実態にあった指導方法を大切にすること。

○「毎日の授業での先生方」はどうするべきか

(a) まず、先生が分かりやすく説明できること

→なぜ、そうなのかを教えられるようにすることが大切。次に子どもに考えさせる。

(b) つまづいている子ども、困っている子どもを見つける。

(c) 算数が苦手な児童に説明できるようにする。

→教える側が分からない児童にどういう教え方をしなければいけないのか責任をもって説明できるようにすることが大切。先生は教え方の見本を示すように。

○全国学力調査より

・H29年度からR5年度 大分県がよくなっている。

→授業改善が進んでいるのではないか。

・他県の例

低学力層をしっかりと意識して、授業を作ることが大切である。

○令和型学校教育について

・一人一人を大切にする授業は変わらない→個別最適な学び

・自由にすると上位層は伸びる。しかし、下位層には難しくなる。

→協働的な学びの充実 グループ活動の使い方

学級として、上位層が下位層に教えられる学級づくりを

どのような学習方法を行うかの判断は子どもの実態をしっかりと見ること

○指導方法 (かけ算九九が覚えられない子について  $6 \times 7$ )

・指導の仕方 A 答えが合わなければ何度もいわせる

B なんで  $4 \times 2$  なのかの理由を教えてあげる  $3 \times 6 + 6$

(続きは) 数字を変えた問題を考えさせる (1問で終わらせない)

C 子どもができる既習を確認しながら進める

分かっていることを基にしたがらの指導

(分かっていることに対して寄り添う指導)

→子どもが子どもに教えてあげる時も同じである。

○L字型の体積より

・多くの子どもが解ける。分からない子どももいる。教師は、自分を基準にしたらだめである。子どもがつまづいていたところで立ち止まり、子どもの代わりに問いをかえることが大切である。

○小学校のかけ算におけるつまづき

・子どもの間違いを想定して指導案を作成することが大切である。

### 【模擬授業】

分数のわり算の面積図はどのように描くか

(問題)  $1 \text{ d L}$  ペンキで  $\frac{4}{5} \text{ m}^2$  塗ることができます。このペンキ  $\frac{3}{4} \text{ d L}$  では何  $\text{m}^2$  塗ることができますか。

→  $1 \text{ d L}$  分で塗れる部分が説明できるようにすることが大切である。

→面積図から子どもの誤答を想定できることが大切である。

→答えが  $\frac{8}{15} \text{ m}^2$  の理由を面積で説明させる。

→それぞれの「つまづくポイント」を想定しておくことが大切である。

